

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3072100559
法人名	社会福祉法人 紀成福祉会
事業所名	グループホームサニーワン
所在地 (電話番号)	和歌山県日高郡日高川町初湯川213-1 (電話) 0738-57-7070

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 17人, 非常勤 8人, 常勤換算	13.6人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	106 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大谷診療所
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日高の山林に囲まれ、近くには椿山ダムを有する等、自然の中でくつろげるホームである。菜園には季節の野菜、花が植えられ、高校生と共同の畑もあり利用者は楽しみながら交流をしている。職員は「家族の一員」であることを念頭に持ち、地域とのかかわりを大切にした理念の基、3ユニット毎に目標を立て利用者それぞれの生活を支援している。利用者からはにこやかな笑顔が窺え、ゆったりした時間と癒しの空間が見えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である研修後の職員への周知については、伝達研修の開催により周知を行う等、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員で検討され管理者によってまとめられている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域との交流や災害対策等に関する討議が行われ、地域への行事参加は積極的に行われている。推進会議委員からの提案を受け、清掃活動に参加する等、地域に出向き交流を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安は常に気軽に申し出て頂けるようお願いしている。申し出のあったことに関しては職員間で検討し運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のイベントやお祭り、小学校の運動会に参加したり、施設の夏祭りや運動会には地域の方や、近隣の小学校、保育園から参加がある等、地域と交流、連携がある。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の交流を大切にすることも盛り込んだホーム独自の理念となっている。また、ユニット毎に目標もっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会等で理念について話し合う機会を持ち、実践に向けた話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の夏祭りや運動会には地域の方、小学生、保育園児等の訪問がある。また、地域のイベントへの参加も行われる等、交流に努めている。地域の老人会との交流も行う予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価結果を踏まえ、意見を出し合い業務改善を行う等、評価を活用した取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域との交流、災害対策等の討議が行われている。地域の委員からは地域に出向き積極的にかかわりを持つよう提案があり清掃活動等に取り組んでいる。しかし、会議の開催頻度が少ない。	○	開催回数を増やし、話し合いの場を持つよう希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点があればその都度、市町村に相談する等、協働しサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回明細書や健康状態、金銭管理内容等の報告を行なうと共に、体調管理は変化があればその都度、連絡を行っている。また、面会時にも詳しく説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には意見、不満、苦情があるときは気軽に申し出て頂くよう、お願いしている。頂いた意見は運営に反映するよう努めているが、あまり意見は出ていない。	○	家族等が意見等、気軽に申し出て頂き運営に反映できるよう、家族との意見交換の場を持つ等取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しない様にしている。職員の退職による異動の場合は、いつでも顔を見せることの出来る環境にあるため、利用者への配慮はされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は定期的に行われている。また外部の勉強会にも参加しているが、受講できる定員数が少ない。	○	実践者研修やリーダー研修の受講定員を増やす等、職員の研修の機会を確保するよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流や研修、見学をし相互実習で質の向上に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用にあたっては、家族と相談しながら、施設見学やショートステイの利用をして頂き、少しずつホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯ものたたみや料理のきざみなど利用者の出来ることは手伝って頂いている。職員は利用者から教わったりしながらお互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えるのが困難な方からは日常の会話の中で本人の意向を察し、また利用者間の会話の中からも見つけ出し把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から要望を聞き取り、ケア会議などでプランの内容を検討しているが、家族との話し合いは十分とは言えない。	○	さらに家族の方にも参加頂いて介護計画を作成されるよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い、体調変化のあった時は都度話し合い検討し、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診の付き添いが出来ないときは職員が付き添う等、柔軟に対応している。併設されている特養でイベントがある時は、職員と一緒に参加し、リハビリ、音楽療法にも要望に併せ参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回主治医の往診があり対応している。かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りについての説明を行っている。重度化した場合は主治医、家族等と話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳の気持ち忘れず、日々言葉使いや態度にも注意をされている。ケース記録等の書類は鍵のかかる場所に保管されている。	○	ドアの開け放し等があった場合は、プライバシーを損ねないよう職員相互で注意し気をつけられるようさらに期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切にし意向を確認しながら対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りには出来る範囲で手伝って頂いている。その都度声掛けをすることにより協力して頂き、楽しみながら食事が出来るよう支援している。食事の好みは聞いているが、本人の好みが聞けない利用者もあり、職員主導の献立となっている。	○	家族から情報を得る等、利用者の好みを把握し食事を楽しむ支援を期待します。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴を実施し、入浴時間や入る入らないは本人の意志に合わせて行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貼り絵や折り紙、針仕事等、一人一人の生活歴、経験を活かし、その人の力に合った役割や楽しみ事をしていく。職員は趣味等を楽しんで頂けるよう、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や併設施設との交流は日々生活の中に取り入れられているが一人ひとりに合った外出支援は十分とはいえない。	○	外出をもっと楽しんでいただけるよう、外出の機会を増やす等、一人ひとりの外出支援を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は本人が施錠することができるが、ホーム周辺の環境により玄関は電子ロックされている。	○	職員の見守りで鍵を掛けない支援が可能か、会議等で話し合いの機会を持たれるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回消防署による避難訓練を実施されているまた地域周辺の4地区との協定書があり協力を得られる体制ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えたメニューを作成されていて、摂取量も記録されている。また本人の体調に合わせた工夫もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはゆったりとしたソファが置かれ、手作りのカレンダー、飾り物などで生活感や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた物品を持参して頂き、本人が居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。床にはタタミを敷かれた部屋もある。		